

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

日向市教育委員会

本調査は、令和3年5月に、文部科学省が小学校6年生および中学校3年生を対象に、「教科に関する学力調査」と「学習習慣や生活習慣等に関する学習状況調査」として、実施しました。

この調査は、国や各県及び市町村教育委員会、各学校が、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、今後の教育指導の充実や学習状況の改善・充実を図ることを目的としています。

1 調査内容

教科に関する学力調査 出題内容 【対象教科】 国語 算数・数学	<ul style="list-style-type: none">○ 身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容○ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等○ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力○ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等に関わる内容
児童生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none">○ 学習意欲・学習方法、学習環境に関する調査○ 生活の諸側面等に関する調査

2 本市における学力・学習状況調査の結果概要

(1)「教科に関する学力調査」の結果概要

① 小学校

- 国語、算数ともに、概ね県及び国の平均正答率と同じような状況であった。

教科	全国と比較して特に良好な内容	全国と比較して特に課題と思われる内容
国語	<ul style="list-style-type: none">○ 文の中における主語と述語との関係を捉える。○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。	<ul style="list-style-type: none">● 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。● 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。
算数	<ul style="list-style-type: none">○ 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する。 (例:30mを1とした時に、12mが0.4に当たるわけを書く)○ 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する。	<ul style="list-style-type: none">● 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する。● 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断する。

② 中学校

- 国語、数学ともに、県の平均正答率と同じような状況であったが、全国の平均正答率にわずかながら達しておらず、課題が見られた。

教科	全国と比較して特に良好な内容	全国と比較して特に課題と思われる内容
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話合いの話題や方向を捉える。 ○ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文脈に即して漢字を正しく読む。 ● 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。 ● 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 与えられたデータから中央値を求める。 ○ 整式の加法と減法の計算をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明する。 ● 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する。 ● ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する。

(2)「学習習慣や生活習慣等に関する学習状況調査」の結果概要

① 小学校

全国と比較して特に肯定的な回答が多い内容	全国と比較して特に課題と思われる内容
<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。 ○ 今住んでいる地域の行事に参加している。 ○ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器の使用頻度 ● 学力調査の解答時間が足りないこと（算数） ● 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりの勉強の時間

② 中学校

全国と比較して特に肯定的な回答が多い内容	今後の課題となる内容
<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学の勉強が好きである。 ○ 英語の勉強が好きである。 ○ 家にある本の冊数（一般の雑誌、新聞、教科書は除く） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために使う頻度 ● 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりの勉強の時間 ● 学力調査の解答時間が足りないこと（国語）

3 今後に向けて

- 各教科等において、「条件に沿って自分の考えをまとめる」「必要な資料を選択し、目的に応じて読み取る」などの言語活動を日々の授業に取り入れるとともに、全国学力調査等と傾向が同様の問題を用い、題意を的確に捉え、時間内に問題を解くことができるような取組を行います。
- 分析した結果を踏まえながら、「改善・実践・継続・徹底・定着・見届け」のサイクルを大切に授業改善に取り組みます。
- 日常的なICT機器の効果的な活用により、多様な子どもたち一人一人に個に応じた指導を行うとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に努めます。